

「中国報」(中国レポート 第八号)

おすすめ書籍 (番外編)

～新型コロナ禍の出張不可能状態のため番外編：おすすめの中国関連書籍情報～

◆中国人のお金の使い道 彼らはどれほどお金持ちになったのか

中島恵著、PHP 研究所刊

本書は今の中国人のライフスタイルに関する知識をバージョンアップしてくれる情報が満載だ。小生のような駐在員の場合、生活圏が狭いし得られる情報も限られる。ましてや中国語も付け焼き刃で、複雑な話になると理解できない。当然現地での生活のメインは業務関係に費やすため、一般の現地の人の生活に関して得られる情報は少ない。

中国人との交流範囲が広く、現地での体験と鋭い分析力、さらには豊かな表現力を持つ著者の一連の中国に関する作品は、これまでも何冊か読ませてもらっているが、中国を理解する上で参考になる。著者の多くの著作のなかでも、とりわけ本書は中国で発表されている研究機関の調査レポートや中国政府の統計データなども活用し、現代中国の実情や分析が行われており、中国ビジネスに関係するビジネスパーソンにも役立つはずだ。

自虐的にいえば、小生を含めた日本企業の駐在員の情報ほど、「群盲象を撫でる」で当てにならないものはない。本書にもあるように中国の変化はスピードが早い。数年前の駐在員の体験談は、眉につばをつけて聞いたほうがいいのかもしいかなもしれない・・・。

本書では公務員や国営企業(国有企業)の社員がどのように優遇され、不動産を取得してきたか、そして不動産がいかに富を得る道具となり現在も資産形成の中核となっているかなどもわかりやすく説明している。住宅積立金制度、養老年金制度、健康保険制度、介護制度といった社会保障の仕組みと、すべての差別の根幹である戸籍制度などを実際の生活に即した例や数字をもとにわかりやすく、かつ最新の状況が説明されている。

著者はコロナ禍でこの1年全く現地に行けなかったようだが、ここまでの調査力はさすがだと思う。タイトルがちょっと柔らかめだが、中身はかなり濃い。

あとがきにも書かれているが「箱の中身を見ないでものを買う」中国人が増えているというのは、そこまで行動が変化してきているのかと小生も驚いた。なにしろ、2007年にDVDプレーヤーを北京の中関村に買いに行ったとき、店員がおもむろに梱包を開けはじめるので、小

生は唾然としてなすすべもなく立ち尽くしていたのを思い出す。店員は当然のごとく、さらに中身を取り出して、店頭にあるテレビに繋いで、おもむろに DVD を挿入し、動作確認を行ったのである。パネルヒーターを購入した時には、箱から取り出して通電し、暖まるかどうか確認のためしばらく待たされた。最初のヒーターは、なんと故障していて暖まらなかったのである。こちらが頼んでいないのに、親切にも梱包を開けて動作確認してくれる(?)ほど、信頼性の低い家電製品が店頭で売られているという事実を身を以て体験しているため、小生は今も中国人はすべてチェックしてから購入するものだと思い込んでいた。

中身を確認せずに買う人がいるという、その変わりようには驚かずにいられない。
中国の今を正しく理解したい方にとってには必読の書。

(2021/03 森山博之)

本レポートに関する問い合わせ先：<https://arc.asahi-kasei.co.jp/contact/>